

「もんじゅ」の危険性

**「もんじゅ」を止めたい
あなたの声を最高裁へ**

下のハガキに皆さんが最高裁に言いたいことを記入して50円切手を貼り(皆さんのカンパで)このビラから切り取り、投函してください。投函口は、出来るなら5月14日(木)までにご投函ください。
最終的には、5月中旬までに投函願います。

「もんじゅ」事故

「もんじゅ」は試運転中の95年12月にナトリウム漏れ火災事故を起こしました。以来、この原子炉は止まったままの状態が続いています。事故の原因は一本の細い温度計の鞘が折れたためでした。鞘の穴からナトリウムが漏れ出て激しく燃え足場やダクト、床の鉄板を溶かしたのです。鞘が折れた原因は後から見れば誰もが指摘する設計の極めて単純なミスでした。

動燃事業団(現核燃料サイクル開発機構)が事故現場の生々しい映像を隠したことに対しても社会的な問題となりました。

運転が止まっている現在もナトリウムを固まらせなためにパイプを電気で暖め続けています。その費用は、この10年間で900億円もかかっています。



ていねいにお切り取り下さい

郵便はがき

102-8651

50円切手を貼って投函下さい

東京都千代田区隼町4-2

最高裁判所第一小法廷 御中

住所
氏名

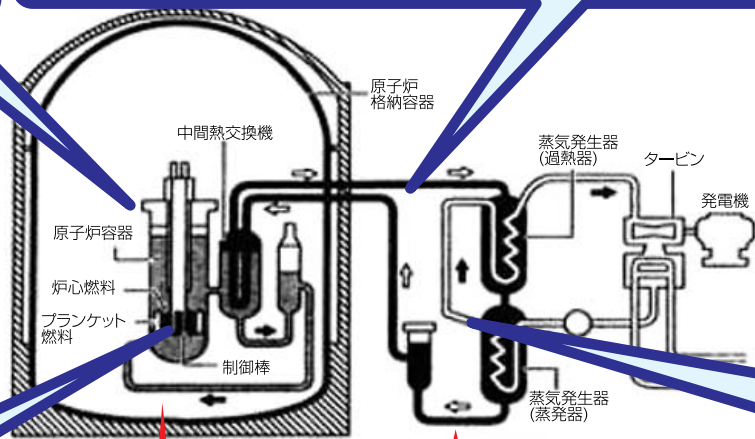
ていねいにお切り取り下さい

冷却に ナトリウムを使う

液体ナトリウムは水に触れると爆発的に反応する。空気にふれるだけでも燃え出す。発電するために最終的にはナトリウムと水で熱交換する。高速増殖炉を手がけた各国でもナトリウム漏れ火災事故に手を焼いた。「もんじゅ」でも95年12月に火災事故が起こった。専門家の中にはナトリウムを使う開発はそもそも無理があると指摘する声がある。しかしプルトリウムを増殖させるためには、冷却に水は使えない。

猛毒 プルトリウムを使う

普通の原発に使われるウランよりプルトリウムの方が遙かに毒性が強い。チェルノブイリ級の事故が起こった場合、被害は比較できないほど深刻なものになる。また、プルトリウムは原爆の材料になるため、大量のプルトリウムを保有することは、それだけで国際的な緊張を高める。高速増殖炉で製造されるプルトリウムは超高純度の最も核兵器に適したプルトリウムなのだ。



■ 1次冷却系の配管 ■ 漏えいした2次冷却系ナトリウムの配管

地震に弱い

「もんじゅ」は普通の原発よりずっと高温で運転される。そのため配管や機器類は緊急停止した場合、急激な温度変化にみまわれる。熱したガラスコップに急に冷水を注ぐと割れると同じ理屈で、下手をすると配管などが割れる。そこで熱対策として出来る限り薄く作っている。さらになぎ目に無理がかからないように配管を相当余分に長くしている。しかし、このことが地震には弱い構造になっている。熱対策と地震対策は両立しない。

暴走しやすい

高速という呼び名の由来は核分裂反応に高速中性子を使うから。一般の原発では低速中性子(普通は熱中性子と呼ばれる)が使われる。低速中性子の方が核分裂反応の効率がずっとよいので、しかも、中性子を制御しやすい。高速増殖炉では核分裂反応の効率が犠牲にして高速中性子を使う。そのため制御が難しい。普通の原発とは違って燃料をぎゅっぎゅっ詰り込んでいるため、ちょっとした異常で燃料溶解や暴走が始まると言われている。ひとたび暴走し始めたら、その速度は一般の原発より桁早い。もはや手が着けられない。



呼びかけ団体 福井県平和センター:910-0004 福井市宝永2-1-8 TEL:0776-21-5321 FAX:0776-27-5773
原発反対福井県民会議:TEL&FAX:0776-25-7784 http://monjuhairo.gozaru.jp
原水禁・平和フォーラム/原子力資料情報室/ストップ・ザ・もんじゅ事務局